

※学年だよりで使用されている写真や作品の SNS 等への掲載はご遠慮ください。

作文紹介 ～人権作文～

みんな違ってみんないい

私は小学校の頃からずっと疑問に思っていることがあります。それは人種差別です。私は小さい頃から人や世界の問題に興味を持ちやすい子供でした。そして、動画配信サイトなどで人種差別のことについて流れてきてより興味を持ちました。だから作文で人種差別について、そして人権を守っていくことに対して思っていることを色々な人に伝えようと思いました。

作文を書くにあたって、人種差別のことについて調べていました。調べた記事には私には理解できない事例などがたくさん書かれており、なんとも言えない気持ちになりました。授業で歴史について学んだけど、その裏にあった中学校では学ばないようなことも知れるので良い機会になりました。自分が人種差別についてできることは、知って次の世代に伝えていきたいことなので、しっかりと記事を読んで自分の考えを持っていきたいです。

読んだ記事の中で一番気になった事例は、ジョージ・フロイドさんの事件です。この記事は2020年に起きました。何が起こったかという、ジョージ・フロイドさんが白人の警察官に暴力を振るわれたことで死亡したという事件です。この事件は、後に白人による黒人差別の象徴として世界中に報道されました。そこで私は、この事件を詳しく調べてみたところ、フロイドさんにある容疑がかかっていたため通報されたそうです。フロイドさんに何も非がなく暴力を振るわれたなら、全ての責任は警察官になるけれど、フロイドさんの容疑は事実だと証言されているので、全ての責任が警察官にあるということではなさそうでした。しかし、警察官はフロイドさんを路上で「9分29秒間」も膝で押さえ続けました。そうして、この事件は「Black Lives matter」(ブラック・ライブス・マター)という大規模な抗議活動にも発展していったそうです。

この事件を知って思ったことは、ちゃんと調べなかったら私は警察官が悪いと決めつけていたと思うし、普段の生活で得る情報なども聞いただけじゃすぐに信じてはいけなかったと感じました。たとえ自分に言われてなかったとしても、捉え方によっては自分に言われていると思ってしまうから、そうやって抗議活動は増えていくと思いました。終わってしまったことでもう何も変えることはできないけど、「もっと違う方法はなかったのかな。」や「近くに自分がいたらどうしていただろう。」と同情してしまいます。

人種差別は人と人がただ傷つけ合っているだけだと思います。人種差別に限らず戦争だってそうです。私は小学校のときにベトナムに行ったことがあります。そのときはまだこのようなことがあると知らなかったし、周りのことをよく見てなかったので分からなかったかもしれないけれど、飲食店に

人も周りの人も私たちを他の人と変わらず接してくれた気がします。これはただのきれいごとにはすぎないけど、困っていたら手を差し伸べる・困っていることがあったら手を差し伸べてもらう。協力関係を築いていくことが一番良い方法だと思います。

人種差別や一人ひとりの人権を守っていくには偏見をなくしていくことが大切だと私は考えます。実際、私も無意識に偏見をもってしまっていることがあります。街中でタトゥーを入れている人や奇抜な格好をしている人を見ると少し距離をとってしまうことです。自分の中で偏見を持つことは良くないと分かっていてもそう簡単になくすことはできません。頭の中で「怖い」「危ない」と決めつけてしまっているの、なかなかなくすことができないのです。自分が気づかないうちにバリアを作ってしまう。こうして人とコミュニケーションをとったり、関わることを諦めてしまう。偏見とは怖いものです。私は偏見を自分からなくすのは時間と意識が肝になってくると思います。急になくすことは不可能だから、ゆっくりと時間をかけること、バリアをこえて関わりをもってみる。もう一つ、「なくしたい。」と意識することで偏見はなくすことが可能だと思います。

最後に、私はなぜ人種差別をするのか、昔から今でもこのようなことが続いているかずっと疑問に思っています。正直、作文を書いて“なぜ差別をしてしまうのか”理解できたわけでもないし、納得したわけでもないです。『肌の色が違う』『自分と違う国に住んでいるから』『歴史的背景に関係するから』などの理由で差別されたら、私も周りも人なので悲しみや怒りを感じます。人によっては難しいかもしれないけど、差別的な感情を持っている人や過去に差別をしてしまった人は、自分だったらどう感じるか初心の気持ちに戻って、今一度考えてみてはどうでしょうか。



この作文は、『町田市優秀賞』『多摩西人権擁護委員協議会長賞』に表彰されることが決まりました。素晴らしいです。皆さんも“身近な人権”について考えてみましょう。

総合の授業 ～MESE～

今週12月9日月曜日から、総合的な学習の時間を使って『MESE』が始まりました。MESE（ミース）は「Management & Economic Simulation Exercise」の略で、アメリカで開発されたコンピュータを活用して意思決定力を養成するシミュレーション・プログラムです。「意思決定には、結果と責任が伴う」という理解と認識を経て、広い視野にもとづく自律的判断力（考える力）、意思決定力、他人と違う意見をもつ勇氣、異質の意見に対する寛容性、コスト意識など、社会生活に必要な基本的資質を育む活動です。今回は、生活班ごとに各クラスで6つの会社を設立し、“エコペン”という商品を製造・販売する仮想会社を運営していきます。そして、3回の授業の中で、売上No.1を目指して、争っていきます。

初日は、会社の組織決めと経営戦略会議が行われました。今回の6つの会社名は、担当の佐瀬先生の計らいで、学年主任の好きなキャラクターから設定されました。会社名を決める時点から、生徒たちは闘争心むき出しで、その後の社長と副社長、経理部長、熱血社員もスムーズに決まっていきました。そして、会議の時間。第一回は、「エコペンの単価」「生産数」「広告費」について話し合いました。お金の単位は“USドル”を使います。社員たちは、クロームブックを使って今日の為替レートを調べたり、実際に日本で発売されている高級なペンの相場を調べたり、活発な活動ができていました。そして、授業終了前に各会社で決定した3つをデータでアメリカに転送……。すると、初日から赤字経営になってしまった会社が……。この後もどのように各会社の経営が進んでいくのか楽しみです。